

読者の広場

本紙8月5日付「近景 以前、私は史料館で講 活用するためにはどうし 遠望」を読んで、海とく 師として数回、はく製魚 たらよいか。有るものを らしの史料館(境港市花 の形、口の形、ひれの形 無くするのは簡単だが、 町)の活用について考え などから、餌の種類やと 失ったものは再びかえっ た。私は教師として過去 り方、泳ぎ方などを推察 てはこない。

数十回、史料館を訪ねて し、NHKの協力を得て 私も数多くのはく製を いるが、その利用法は多 「自然のアルバム」「魚 手掛けたが、コイ一匹で く、参加した児童・生徒 の不思議「回遊魚」熱 も完全に仕上げるには約 の中にはそれがもて大 帯の魚」などをテーマに 1週間かかる。このよう 学で魚類の研究をした したVTRを製作し、児 な、はく製の作り方や魚 拓(特に自分で釣った魚 は子どもたちは喜び)の り、服飾デザイナーで魚 童・生徒たちに実生感を 拓(特に自分で釣った魚

海とくらしの史料館活用

をモチーフにしたりして 見せた。中には、学習し いる人もいる。 たことを自由研究として

しかし、史料館の在り までめ知事賞を得た子も いた。

は「内容は良いが何度も 古いものはそれをもと 行きたいという感じでは に新しい感覚で再構成す ど、いくらでも工夫はあ ない」との指摘があった る。水木しげるロードや 米子城跡の例を見ても、 工夫でよみがえることが きてくる。一考をお願 いた。

よい案がでることを期待 するが、私の過去の利用 わかる。展示品もいつも 同じように並べては一般 元町、自然に親しむ会 を述べてみたい。 受けがしない。生かして 会長、88歳)

清末 忠人(鳥取市